



episode.07

見守る ～美しい蘭牟田池のために～

話し手 蘭牟田池公認観光ガイド

い け だ ゆたか
池田 豊さん（昭和13年10月3日生）

聞き手 川島学園 れいめい高等学校

2年 中原 悠真 2年 酒匂 海翔
2年 山口 智也 2年 松崎 孟
2年 中島 瑛翔



「今と昔の楽しみ方」

蘭牟田池の魅力は、春夏秋冬にきれいな景色を見られるということです。この美しい景観を皆さんに楽しんでもらおうといろんなイベントが開催されています。

自転車で池の周りをサイクリングできたり、2月下旬頃に梅マラソンが行われたり、5月頃に蘭牟田池マルシェという市場があったり、外輪山登山など皆さんに楽しんでもらっています。

この地域の中では、蘭牟田池のことを“鴨獲り場”と呼ぶ人がいました。鴨が獲れる池ということですね。鴨を獲る人にとっては、秋から冬にかけて猟をするのが楽しみで、鴨獲り場は3箇所あって投げ網で猟をしていたと聞いています。

鴨たちは、稲の収穫時期になると稲穂を食べに田んぼへ行き来するために、鴨獲り場の上空を通るんです。そこに投げ網をして捕まえていたみたいです。

「保全活動」

2009年に雨が全く降らず、池の水がなくなり大渇水に見舞われました。ベッコウトンボがいなくなって、ビオトープという人工の池を作って、そこでベッコウトンボが卵を産んで幼虫が育つようにしました。このビオトープの管理も私達の仕事です。

私達の仕事は、ベッコウトンボなどの保護活動や雑草雑木の伐採、外来種駆除、そして観光ガイドも行っています。

保全活動の一つに外来魚の釣り大会があります。蘭牟田池にはブルーギルやブラックバスなどの外来種がたくさん生息しているため、その駆除を行う必要もあります。

「仕事のやりがい」

観光客の質問にうまく答えることができた時ですかね。他にも皆さんが勘違いしていることを正すことができた時など、訪れた人達との交流や知識共有ができることにやりがいを感じます。

これからの活動には後継者がいないので探すという課題があり、私以外に2、3人いますが、人手不足なのでもっと増やしていきたいです。



ベッコウトンボ



蘭草（アンペライ）



「蘭牟田池の歴史」

蘭牟田池の名前の由来は、昔、蘭草（イグサ）という植物がたくさん生えている牟田（湿地）ということで、「蘭牟田池」と呼ばれています。

学者の研究によると、50万年ぐらい前この辺りは、火山活動が盛んだったそうです。約30万年前になると盛り上がっていた蘭牟田火山の活動が止まり、その火口付近が陥没。そこに水が溜まって池になったと言われています。

池の周りにある山が、「外輪山」です。7つの山になっていて、それぞれに名前があって、愛宕山、舟見岳、交蔓山、竜石、山王岳、片城山、飯盛山という名前です。

「生き物・植物」

蘭牟田池周辺には、たくさんの生き物が生息しています。

池の中に生えている植物でいうと、ジュンサイ、ヨシ、マコモなどがあります。

蘭牟田池の生態で重要なのが、国の天然記念物に指定されている「泥炭（でいたん）形成植物群落」です。これは、池に生えていた植物が枯れて湖底に堆積し、それが長い年月をかけて炭化して泥炭層という層になります。この一部が離れて水面に浮きあがり大小さまざまな浮島になるんですね。風が強い日はあちこちに流されていきますよ。この浮島の上にもヒトモトススキやエゾミソハギなどの植物が生えているのが蘭牟田池の特徴ですね。

それと動物ではベッコウトンボが有名です。羽の色や未熟な個体の色がベッコウ色だからこの名前がついているそうです。絶滅危惧種Ⅰ類にも指定されている大変希少なトンボが生息しています。

こういった希少な動植物が生息しているので蘭牟田池は、世界的にも希少な場所で2005年にラムサール条約の登録湿地にもなっています。

